

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101933		
法人名	株式会社メディウエル		
事業所名	グループホーム西大寺中央(すずらん)		
所在地	岡山市東区松新町16-1		
自己評価作成日	令和 7 年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101933-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 7 年 11 月 6 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食べることは利用者様にとって大きな楽しみの一つであると考え、管理栄養士の立てた献立を参考にした温かくて美味しい手作りの食事を提供しています。また、季節を感じていただけるように旬の食材を取り入れ、季節や行事にちなんだ食事やおやつも大切にしています。月に1、2回「おばあちゃんの台所」として利用者様と一緒に食べたい物を作ったりし、食事を介してのコミュニケーションを大切にしています。

・日当たり良好なりビングや居室で利用者様は、思い思いに過ごされています。出来る事やしたい事をお手伝いさせていただき、穏やかにゆったり過ごしていただきたく心に寄り添える時間を大切に、笑顔で楽しく過ごせる場所である事を心掛けています。

・コロナで人混みへの外出が難しい中、少しでも外出の機会が増える様に野菜や花を育てたり、散歩やドライブ、ご希望される方はお弁当を持っての「誕生日外出」など楽しみの支援をしています。

・毎月、自由参加の「お楽しみの日」を開催、「男子会」等を開催し普段と違った雰囲気を楽しむ機会を作っています。

・今年度から、認定理学療法士より、日常的にさりげなく取り入れられるリハビリや体操をアドバイス頂き、個別に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街の中に位置し、かつての面影である田んぼが多少残る地域にある。利用者は日々、ゆっすり散歩しながら季節の移ろいを感じることができる。優れている点としては次の3点がある。第一に、法人が一人ひとりの社員を大切に、組織として活動していること。第二に、こだわりを持って3食とも職員手作りの食事を提供していること。第三に、災害に備えた備蓄が豊富で定期的に使用・確認していること。工夫点としては、法人・管理職と職員間の風通しが良く意見を言いやすい環境を作っていること。さらに、職員を育てるための研修をはじめ、年間を通して研修が充実していることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で話し合い決めた理念を事務所、ロッカールーム等、毎日、目に入る場所に掲示し、実践につなげています。	事業所開設時に職員が話し合っって作成した理念を事務所、ロッカーに掲示すると共に、印刷した物を個々に持参している。月に一度のミーティングでケアを振り返ることで、共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響もありながらも、散歩中にチューリップ畑の栽培者さんとのごあいさつ、お声掛け頂ける機会がありました。書面にて様子をご報告、ご意見を継続で下さっています。(民生委員等)	町内会に加わり、定期的に回覧板が回ってくる。利用者は回覧板と一緒に活動内容を民生委員に届けている。また、小学校の運動会を見に行ったりしている。コロナ禍以前は保育園との交流やボランティアの受け入れもしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は、散歩等をしている様子をみて頂くことで、ホームや利用者の理解につながるように思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当の方、地区の民生委員、地域包括の担当者、近所の施設の施設長、利用者様のご家族等に書面会議にて、ホームからの様子を書面や写真を添えて報告、皆様からのご意見を頂き、サービスの向上に生かすようにしております。	事業者指導課、地域包括支援センター、民生委員、利用者、家族が参加して、2ヶ月に一度開催している。出された意見は、オレンジクロスを作り、小学校に届けること等に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市の担当の方、地域包括の方が参加して下さい、その折に、ホームの取り組みをお伝えしております。	ホーム長が窓口となり、事業所内で分からないことや聞きたいことがあれば、その都度連絡している。介護保険に関しては本社で取りまとめて聞いている。電話等、日常的に細やかな連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内の勉強会で拘束をしないケア、不適切ケアについて学ぶ・考える機会を設けています。施錠はもちろん、身体拘束をしないケアに努めております。勉強会、欠席者も書面での意見提出をしています。	年2回の研修及び毎月の委員会の中で学び合い、拘束の必要のないケアに努めている。スピーチロックについては、ミーティングで気づきを出し合い、その解消に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内の勉強会で虐待、不適切ケアについて学ぶ考える機会を設けています。関連のニュース、報道等があった時には、スタッフ間で話し合う等、日頃より意識したケアにあたっております。勉強会、欠席者も書面での意見提出をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、制度を利用されている方もいらっしゃいましたが、詳しいことまで理解出来ていないのが現状と思われる。(分からない時)判断に迷った時に(弁護士)後見人に相談した事例あり。今現在の入居者様で制度を利用している方はいらっしゃいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明と、家族の思いをお尋ねするようしております。入居に関しては家族だけでなく、出来るだけご本人様の納得も得るようにしております。改定時には、文章でお伝えし、捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に、入居者様の様子や状況をお伝えする様にしております。その際は、ご家族の思いや要望等も伺うように努めております。運営推進会議でご意見を頂いたり、欠席の方からも事前に書面でご意見を頂ける形をとっている。	利用者は日々のケアの中で、家族は面会時や電話連絡した際に意見を聴くようにしている。出された意見は、誕生日の食事内容や草抜き等の仕事の提供、面会場所の緩和などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回のミーティングの中でスタッフ同士が自由に意見交換できる場を設けています。皆で相談・話し合ったことを業務に生かしております。年に一回、代表者との面談があり、個々の意見や要望を伝える機会を設けています。必要に応じて代表者・管理者との面談機会が設けられている。	年1回の代表者との面談、随時の管理者との面談をはじめ、ミーティングの中でも職員の意見を聴くようにしている。出された意見は、風呂場の改修や災害マニュアルの見直し、運営推進会議の議事録を本部の総務が分担すること等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時の業務終了に皆で努めております。各自の勤務希望(休み希望、有給希望)を最大限尊重しております。必要な残業は認められ、それに伴う残業代も支払われています。体調不良時にも配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、ケアマネージャー等の資格取得を奨励し、勤務の配慮をしています。段階に応じて、外部研修に行く機会を設けております。キャリアパスにて、個々の目標設定と振り返りの機会を設けております。ミーティングを活用して「研修報告会」として、学んできた内容を皆で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症の影響もありながらも、外部研修への参加し、その中での同業者との交流を図ったり、交流の情報などをホームで共有していく機会を持つようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、環境変化により、不安があると思うので、本人様の思いを傾聴し、寄り添う。より手厚く関わり信頼関係を築き、スタッフや他入居者様と一日も早く馴染みの関係が出来、安心してホームで過ごして頂けるように支援させていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを傾聴し、入所当初はちょっとした事でも連絡をさせて頂くことで信頼関係を築けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人様、担当ケアマネージャー等と十分な話し合いをし、また実際に面談をさせて頂き、必要な支援の見極めをさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の高い方が増えてきていますが、出来る方、お一人の負担とならない様に配慮しながら、ご本人様のできること、意欲を見極め、ご負担にならない程度の日常のお手伝いをお願いしたり一緒に行う様にしております。担当制を取り入れているのでスタッフも意識して関係作りに努めている。スタッフが入居者様から労いのお言葉を頂いたり、励ましてもらうこともあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限をお願いしている中でも、ご本人様とご家族との関係、つながりを大切にたく電話での連絡や月に1回、お手紙(自筆、スタッフ代筆)や写真にてご様子をお伝えしています。ご本人とご家族とのパイプ役になれるよう心掛けております。新型コロナウイルス感染症の感染状況に配慮しながら、玄関ホールでの面会も行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの家具や物を置いたり、家族の写真や物、場所を大切にできるように支援させて頂いております。昔話(会話)の中で思い出話をしてくださる方もおられます。なじみの人との繋がりが途切れない様に面会・電話・手紙の支援もさせて頂いております。	馴染みの美容院に化粧品を注文して届けて貰ったり、元職場の同僚が来訪したケースもある。また、職員の支援で昔の職場に行ったり、自宅に戻ったり、馴染みの初詣場所に行く人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人で過ごされるのがお好きな方もおられますが、お一人で孤立しないように、相性やその方の性格にも配慮しております。1階、2階の入居者様の交流支援も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了が関係の終了でなく、退居後もいつでも相談して頂けることをお伝えしております。ホーム以外でばったりご家族にお会いすると近況を報告して下さったりする事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話やなにげなく発せられた言葉、しぐさ、表情等から、ご本人様の食べたい物、行きたい所、やりたいこと等の思いや希望を把握できるよう努めております。	入浴時等、利用者と職員が二人きりになる時に思いや意向を聞くようにし、かつての勤務先に行くことなどに反映している。把握が困難な場合は、表情や発話、家族との連携、アセスメントの見直し等により、本人本位となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やソーシャルワーカー等、ご本人と関わりのある方からの情報やバックグラウンドから生活歴や環境等の把握を行い、さらには入居後のご本人との談話の中からより深く知るようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話時の表情等から体調や気分の変化を把握し、介護記録や申し送り等で情報の共有をしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心に定期的または状況変化に応じてモニタリングを行い、ケアプランの作成を行っております。ご本人様がより良く暮らして頂けるよう、ご本人様やご家族のご意見を伺いながらプランの作成に努めております。	ホーム長のアセスメント後、書面や口頭で全職員に周知し、管理者が仮のプランを作成している。次に担当者を中心にカンファレンスを行い、サービス担当者会議を経て計画を確定している。モニタリング及び見直しは1ヶ月→3ヶ月→以降変わらなければ6ヶ月を基本としているが、状況に応じて柔軟に対応している。面会時等で聞き取った家族の意見も細やかに取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録、業務日誌に個別に記録し、申し送りで情報の共有をしております。ご本人の言葉は詳細に記録するようにしております。介護計画の全部の把握が難しく、介護記録の先頭ページへ項目ごとに番号を付けた介護計画のコピーを挟んで、介護記録を記入する際に活用できるよう心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時で皆で話し合い、アイデアを出し合い、柔軟な支援につながるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力も得ながら、ご本人様の生活が豊かになるよう支援させて頂きたいと思っております。地域のスーパー等での買い物をスタッフが代行で行うことがあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族の希望があれば個々に希望の医療機関へ受診して頂いております。いつでも受診できるように関係医療機関と連携しております。	協力医の訪問が2週間に1回、訪問看護師の訪問が毎週ある。医師との連携が24時間出来る体制を確立し、利用者・家族に医療面での安心感をもたらしている。歯科訪問は希望者のみとし、週1回来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はおりませんが、週1の訪問看護時に情報や気づきを相談、医師へ伝えて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの様子・情報をご家族のご理解の上、病院へ提供しております。また、定期的に病院関係者へ連絡を取り、病状把握や退院のめど等情報を頂けるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えた利用者様のご家族へは医師の方から病状説明をして頂いた上で十分に話し合いをし、考えて頂き、方針の決定ができるよう支援させて頂いております。スタッフは方針に沿い、出来る限りの支援を行うようにしております。	入居時、ホーム長から重度化・終末期に向けた方針を丁寧に説明し、家族の同意を得ている。重度化した場合は主治医が家族に説明し、今後の方針等を決定・共有している。年一回、動画等を使って看取りに関する職員研修を実施し、看取りに対する職員の態勢も作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し備えております。事例があった後や、勉強会での対応方法の確認をし実践力が身に付くよう努めておりますが、訓練としては、なかなか実施出来ていない現状があります。このテーマの外部研修に年に一人ずつ行き、実践訓練をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけでなく、水害・地震を想定したり日夜想定し避難訓練を行っております。非常食や備品の確保、災害に応じた避難場所の確認、月に1度の災害伝言ダイヤルの利用も行っております。入居者様も参加の災害訓練を実施し、停電を想定し、レトルトのミキサー食の備蓄を進めている。	昼夜を想定した火災の避難訓練を年2回実施し、利用者も参加している。また、水害に備えた垂直避難の訓練も実施している。医薬品、衛生用品、食料など豊富な備蓄を整え、定期的に使用・補充する等している。BCP(事業継続計画)もその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳と礼儀、その方を大切に思う気持ちを忘れず、一人ひとりを尊重した接し方を心がけております。スタッフが居室へ入る時は、ご本人様の了解をもらったり、ノックを必ずするように心掛けています。プライバシーに配慮し、イニシャルで申し送りをしています。	居室に入る時のノックや声かけ、着替え時のプライバシー保護などに配慮している。また、岡山弁を使用してゆっくり話すなどの配慮もしている。外部に写真を提供する際、他人の顔などが映らないように本人の顔をメインで撮影するなど、プライバシーにも細やかに気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を言いやすいよう、また 選択しやすい声掛け、雰囲気作りに努めております。ご本人様の言葉や表情から思いをくみ取れるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、柔軟な対応に努めております。起床や食事の時間をずらすこともありますが、入浴もご本人様の気持ち、体調等を考慮し支援させて頂いております。食事に関しても、一気に量を食せない方には、その方に合った量でお出ししたり、様子を考慮しながら対応させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の整容に気を配り、さりげなくお手伝いをさせて頂いております。ご本人様が着たい服を選べるよう支援させて頂いております。整髪・髭剃り等の身だしなみ、食べこぼしなどがあった時は、その都度更衣している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を話題にしたり、食べたい物を聞いたりメニューと一緒に考え、食事が楽しみなものになるよう努めております。ボードにメニューを書いて話題にしたり、味見をして頂いたり、簡単な調理手伝いをして頂くこともあります。「おばあちゃんの台所」は、イベントとして定着してきています。	管理栄養士が作成した献立を基に、職員が3食手作りで提供している。月に1回、「おばあちゃんの台所」と称し、利用者の希望するメニューと一緒に作っている。年間を通して豊かな行事食も提供し、利用者も味見や野菜の仕分けなど、出来ることに加わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に適した食事量、形態でお出ししております。食が細い方へは好みの物や食べやすい物をお出しする等、個別に対応させて頂いております。グループ会社の管理栄養士さんへ相談もさせて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声を掛けさせて頂き、必要な方へは見守りや介助等し、清潔が保てるよう支援させて頂いております。ご希望の方には、訪問歯科に入って頂き、スタッフもアドバイスを頂き、日頃のケアに生かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンを把握し、また仕草や表情等から排泄サインを見逃さないようにし、個々のタイミングでトイレでの排泄が出来るよう支援に努めております。	排泄記録と細やかな声かけにより、昼間は多くの利用者がトイレで排泄している。夜間は、利用者一人ひとりに応じた対応となっている。また、パットが小さくなったり、枚数が減った利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳をお出ししたり、海藻類や野菜等の食物繊維を食事に盛り込み自然な排便が出来るよう支援させて頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日に関係なく、入浴支援しております。利用者様のペースを大切に、無理なお誘いはせず、気持ちよく入浴して頂けるよう心掛けております。	週2回、午前を中心に入浴している。季節に合わせて温度を変えたり、入浴を嫌がる人には、動きの流れを変えたり言葉かけの工夫等により、清潔保持に努めている。また、要介護5の利用者も二人介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や生活サイクルを考慮し、午睡の時間を設けたりソファーに横になる等、その方にとって最適な休息時間がとれるよう心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書から服用されている薬の情報を活用し、常に個々の服薬情報の把握に努めております。薬剤師と密に連携し、情報交換させて頂いております。服薬時には声に出して名前・日付等を確認し、薬チェック表を用いて、誤薬のないよう気を付けておりますが、服薬支援マニュアルの徹底が不十分である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の興味のあること、出来ることに目を向け無理のない程度に活動ができるよう支援させて頂いております。(例)おばあちゃんの台所 お楽しみの日 誕生日会 季節の行事など)年間継続して毎月「お楽しみ会」「おばあちゃんの台所」を開催でき、入居者様と楽しい時間を持た。不定期開催で、男子会を行い、男性スタッフ、男性の入居者さまと楽しい時間をすごしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の為、買い物は、自粛していますが、日向ぼっこ、散歩やごみ捨て、草取りやお花のお世話、お花見(青空弁当)、ドライブ等、外出できる機会を大切にしています。	コロナ感染症で難しい現状にはあるが、職員と一緒に日々の散歩や誕生日のドライブ、花見等に出かけることで、気分転換を図っている。また、たこ焼き等をテイクアウトして外で食べたりもしている。	時期等、細やかな配慮の中で家族との外出計画が増えることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人数が少ないが家族で承の上お金を所持している方がいる。現在コロナ禍にて買い物外出を控えている。必要物品は、預り金から購入している為、ご本人様が所有しているお金での購入機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、年賀状や手紙のやりとりができるよう支援させて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを配置しどなたでもゆったりとくつろいで頂ける空間を作っております。外の景色を見たり、飛んでいる鳥を眺めたり空を眺めたり、プランターの花を眺めたり季節を感じて頂けるようになっております。観葉植物やモビール、壁面飾りにてお部屋の中でも季節を感じて頂ける工夫を行っています。雑誌や新聞等読み物を読んで過ごされる方もいらっしゃいます。	各階共有のリビング・廊下は広くて日当たりが良く、温度や湿度の管理も適切にされている。ゆったりと寛げるソファのそばに置かれた鉢植えやベランダの花の水やりは、利用者も加わっている。壁面には行事の写真や季節を感じるシールの絵などが飾られ、雑誌や新聞を読んだり職員と会話をしたりして、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの他、椅子もいくつか配置しておりますので皆さん思い思いの場所で過ごされています。居室で過ごされる方もおられ、皆さん自由に過ごしておられます。2階から降りて来られる方も1階で心地よく過ごせる環境を作り努め、ホーム全体で見守っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのある物を持ち込まれたり、各々個性のある部屋になっており、扉を開けるとご自分の部屋であると認識されます。ご自分で作った作品を飾ったり、皆さん個々で落ち着く環境で過ごされています。	各室に温度計・湿度計を置き、利用者の健康に配慮している。また、入口には利用者の写真を掲示するなど利便性も図っている。リクリエーションで利用者が作った作品や職員のプレゼントなども置かれ、その人らしい生活スタイルの中で穏やかに暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ安全に配慮した家具の配置を行ったり、つかまり歩きが出来る居室での導線を考え、滑り止めマットを敷く等、環境整備に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101933		
法人名	株式会社メディウエル		
事業所名	グループホーム西大寺中央(ひまわり)		
所在地	岡山市東区松新町16-1		
自己評価作成日	令和 7 年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101933-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 7 年 11 月 6 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・食べることは利用者様にとって大きな楽しみの一つであると考え、管理栄養士の立てた献立を参考にした温かくて美味しい手作りの食事を提供しています。また、季節を感じていただけるように旬の食材を取り入れ、季節や行事にちなんだ食事やおやつも大切にしています。月に1、2回「おばあちゃんの台所」として利用者様と一緒に食べたい物を作ったり、食事を介してのコミュニケーションを大切にしています。 ・日当たり良好なりビングや居室で利用者様は、思い思いに過ごされています。出来る事やしたい事をお手伝いさせていただき、穏やかにゆったり過ごしていただきたく心に寄り添える時間を大切に、笑顔で楽しく過ごせる場所である事を心掛けています。 ・コロナで人混みへの外出が難しい中、少しでも外出の機会が増える様に野菜や花を育てたり、散歩やドライブ、ご希望される方はお弁当を持っての「誕生日外出」など楽しみの支援をしています。 ・毎月、自由参加の「お楽しみの日」を開催、「男子会」等を開催し普段と違った雰囲気を楽しむ機会を作っています。 ・今年度から、認定理学療法士より、日常的にさりげなく取り入れられるリハビリや体操をアドバイス頂き、個別に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅街の中に位置し、かつての面影である田んぼが多少残る地域にある。利用者は日々、ゆっすり散歩しながら季節の移ろいを感じることができる。優れている点としては次の3点がある。第一に、法人が一人ひとりの社員を大切に、組織として活動していること。第二に、こだわりを持って3食とも職員手作りの食事を提供していること。第三に、災害に備えた備蓄が豊富で定期的に使用・確認していること。工夫点としては、法人・管理職と職員間の風通しが良く意見を言いやすい環境を作っていること。さらに、職員を育てるための研修をはじめ、年間を通して研修が充実していることがある。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念を事務所や更衣室などに掲示するほか、個々にも配布している。本年度は倫理及び法令順守に関する研修で、理念を再共有する機会を設けた。他、考え方の相違・迷いが生じた時などに理念に立ち戻り、基づいた統一したケアの実践に繋げている	事業所開設時に職員が話し合って作成した理念を事務所、ロッカーに掲示すると共に、印刷した物を個々に持参している。月に一度のミーティングでケアを振り返ることで、共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、回覧板で町内の状況を把握している。また、運営推進会議等で民生委員の方から町内の様子や活動のお話を伺いながら地域との接点を模索している。本年度は、コロナ感染を鑑み、屋外での地域の行事や活動への参加を試みた。また、散歩や受診の際等に近所の方、下校中の子供たちとあいさつを交わしている。	町内会に加わり、定期的に回覧板が回ってくる。利用者は回覧板と一緒に活動内容を民生委員に届けている。また、小学校の運動会を見に行ったりしている。コロナ禍以前は保育園との交流やボランティアの受け入れもしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが5類感染症に移行したが、地域のスーパーに利用者と一緒に買い物に出かけたり、理髪店や美容院を利用することはまだ控えている。屋外でチューリップ畑を見せて頂いたり小学校の運動会を見学したり、散歩の際等にあいさつを交わしながらホームでの暮らしぶりや利用者の理解が深まるように務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに地区の民生委員、地域包括の担当者、市担当者、利用者の家族等に参加して頂いている。書面、写真を添え、ホームの状況やサービスの取り組みを伝えながら、皆様からのご意見を頂きサービスの向上に活かしている。参加できなかった家族から事前にご意見を頂く等、全ての家族へ議事録を送付している	事業者指導課、地域包括支援センター、民生委員、利用者、家族が参加して、2ヶ月に一度開催している。出された意見は、オレンジクロスを作り、小学校に届けること等に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者との連絡は管理者が行っている。運営推進会議に地域包括の担当者、市担当者が参加して頂き、ホームの状況、取り組みを伝え、意見交換をしている。またその限りでなく、電話連絡や相談を行っている。	ホーム長が窓口となり、事業所内で分からないことや聞きたいことがあれば、その都度連絡している。介護保険に関しては本社で取りまとめて聞いている。電話等、日常的に細やかな連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で拘束をしないケア、不適切ケアについて学ぶ・考える機会を設けている。毎月のミーティング時に身体拘束検討委員会を行い、不適切ケアに気付く、意見交換のできる機会としている。欠席者も書面での意見提出をしている。その日の利用者の状態を職員間で共有し、鈴の音や出入口のセンサーチャイム、内線等を活用し、利用者の自由な動きをホーム全体で見守っている。行動制限にならないさりげない声掛けの工夫に取り組んでいる。	年2回の研修及び毎月の委員会の中で学び合い、拘束の必要のないケアに努めている。スピーチロックについては、ミーティングで気づきを出し合い、その解消に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待、不適切ケアについて学び考える機会を設けている。毎月のミーティングで、対応に困っている事例の共有、相談や不適切ケアについて、欠席者も書面での意見提出をし、職員間で振り返り気付く機会としている。言葉がけや声のトーンによる威圧感等が虐待に繋がらないように確認している。職員お互いが気付いた点などを言い合える、困っていることを相談し合える職場環境作りを目指している。職員のメンタルヘルスケアについて考える機会を設けたり、研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在の入居者様で制度を利用されている方はいらっしゃらない。職員が詳しいことまで理解できていないと思われる。利用者一人ひとりの権利を守る為に必要な時に支援が出来る体制を整える必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定に沿った変更は管理者が文書と口頭にて行っている。契約時には家族の思いを聞きながら、また質問に答えながら丁寧に進めている。この場限りではなく、何時でも閲覧できるようにもしている。また、必要な際にはその都度改めて、納得を得られるように説明、確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で気兼ねなく何でも言えるような雰囲気作りを心掛けている。言葉にされない方の思いを汲み取ること、何気なく発した言葉を意識して隠れた要望を把握することも必要。家族へは電話や来訪時に、普段の様子等細かなことも伝えながら、意見・要望等をお聞きしている。運営推進会議でご意見を頂いたり、欠席の方からも事前に書面でご意見を頂ける形をとっている。	利用者は日々のケアの中で、家族は面会時や電話連絡した際に意見を聴くようにしている。出された意見は、誕生日の食事内容や草抜き等の仕事の提供、面会場所の緩和などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、毎月のミーティングでスタッフ同士が自由に意見交換できる環境がある。ミーティングで生産性向上委員会として業務改善について意見交換できる時間を設け、スタッフで話し合ったことを業務に活かしている。年一回の面談だけでなく、必要に応じて代表者・管理者との面談機会が設けられ、個々の意見や要望を伝える機会がある。また、毎月のミーティングにて意見を言える環境がある。	年1回の代表者との面談、随時の管理者との面談をはじめ、ミーティングの中でも職員の意見を聴くようにしている。出された意見は、風呂場の改修や災害マニュアルの見直し、運営推進会議の議事録を本部の総務が分担すること等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体の介護度が上がり、肌間隔としては人手が足りないように思う。業務の簡略化が出来るところを見直し、負担の軽減に努めている。各自の休み希望を可能な限り調整し、勤務変更の際には職員同士で助け合い調整できている。定時終了に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスを取り入れ、個々の目標設定と振り返りを行っている。内部研修は、時に外部の講師による研修を含め、毎月継続して行っている。年1度程度、個々の希望を聞きながら全職員が外部研修に参加している。『研修報告』をファイルに閉じ、ミーティングで研修で学んできた内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加が増え同業者との交流を図っている。情報等をホームで共有する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や訪問にて事前面談を行っている。入居への不安や混乱を理解した上で、本人の思いやペースを尊重しながら安心してもらえる関わりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の大変だった思い、入居を決められた経緯、不安に思っていることなど様々な思いを理解し、その気持ちに寄り添い傾聴し信頼関係を作ることを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居は本人、家族の状況を確認し、緊急性を重視している。そのうえで担当ケアマネージャ等と十分な情報交換をし、また実際に面談を行い必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること興味の持てる事を見極め、職員や利用者様同士と会話を楽しみながら心掛け、お手伝い等をお願いしている。相互に、お礼の言葉やどういたしましてが自然と交わされる心地よい関係づくりに努めている。介護度が高い人が増え、本人の負担にならないように配慮しながら本人の気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係が途切れないようにパイプ役を心掛けている。電話連絡のみならず、毎月本人の自筆の手紙を書くお手伝いをしたり、または代筆し、写真を添え日々の様子をお伝えしている。面会希望の際には、感染対策をしながら顔が見える形で会話ができるように行い、その際には本人への思いを共有している。本年度は、家族からの依頼に対しての提案として家族との写真撮影を行った方がいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との電話の取次ぎをしたり、馴染みのお店での購入品の受け渡しのお手伝いをしながら関係が継続できるように配慮している。機会は少ない。また、馴染みの方の手紙や写真を一緒に見ながら、話題を共有し、関係が大切に出来るよう心掛けている。	馴染みの美容院に化粧品を注文して届けて貰ったり、元職場の同僚が来訪したケースもある。また、職員の支援で昔の職場に行ったり、自宅に戻ったり、馴染みの初詣場所に行く人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や一人ひとりの性格にも配慮し、席の配置を考えている。会話と一緒に歌を唄う等さりげなく交流のサポートを努めたり、催し物等で関わり合いの機会を増えるように支援している。別ユニットと合流の男子会を開催し、少数の男子同士の交流を深める機会を設けている。野菜の仕分け等を別ユニットと一緒にするなど、交流する機会を設けるよう努めている。個人差はあるが、別ユニットの利用者様と話したい等、別ユニットで過ごすこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了が関係の終了でなく、退居後もいつでも相談して頂けることを伝えている。知り合いの方が入居していたとご縁で、引き続き入居を選ばれる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会に応じて本人や家族の希望や意向を尋ねている。また、普段の何気ない会話から本人の思い、食べたい物やしたいこと等を知る事を大切に、申し送りノート等を活用し情報共有し、お誕生日等を利用して叶える手立てをしている。表情や口調や言い回しなどから思いやライフスタイルを汲み取るように心掛け、気になる事は職員間で話し合っている。言葉にされるのが難しい方に対して困難な面もあるが、本人の視点に立ち検討するよう努めている。	入浴時等、利用者と職員が二人きりになる時に思いや意向を聞くようにし、かつての勤務先に行くことなどに反映している。把握が困難な場合は、表情や発話、家族との連携、アセスメントの見直し等により、本人本位となるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネージャなどからの聞き取りで生活歴や環境の把握を行い、さらに本人との普段の関わりの中から、家族の協力も得ながら、職員間で情報共有しながら深く理解するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を共にする中で、一日の過ごし方や習慣・こだわりなどを理解、普段の様子を把握している。その日の表情や言動から体調や気分の変化を察せられるように努め、記録や申し送り等で情報共有している。また、出来ること分かる事を大切に、職員間で情報共有しながらケア方法や環境の見直しに努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、状況変化に応じてモニタリングを行っている。本人の現状の課題を把握し、担当者を中心に気付きシートを活用しながら職員間で話し合っている。豊かな暮らしを目指し、本人や家族の意向に沿いながら現状に即した支援を検討している。介護計画の作成に当たっては、医師・薬剤師・管理栄養士・認定理学療法士の助言を反映している	ホーム長のアセスメント後、書面や口頭で全職員に周知し、管理者が仮のプランを作成している。次に担当者を中心にカンファレンスを行い、サービス担当者会議を経て計画を確定している。モニタリング及び見直しは1ヶ月→3ヶ月→以降変わらなければ6ヶ月を基本としているが、状況に応じて柔軟に対応している。面会時等で聞き取った家族の意見も細やかに取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等を記入している。その際に発した言葉を詳細に、またケアプランに振った番号を活用しながら記入するように努めているが、行ったケアや関わりに対する本人の様子の記録が十分とは言えない。申し送りなどで職員間で情報共有し、日常や変化を把握し、ケアの実践や見直しに活かしている。また、ヒヤリハットの気づきがより良いケアにつながるように、些細な気づきでも報告書に残すよう取り組んでいる。皮膚状態に関して、人体図に記すことで状態や変化が情報共有し易くなった。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナが5類感染症に移行後、感染状況を鑑みながら面会方法を柔軟に対応している。現在、入退院の際や専門医への受診の際には職員が対応している。他、職員が散髪を請け負い、買い物の代行を継続している。全体の介護度も上がり対応しきれない場面もあり、状況に応じて食器の洗い物が少ないメニューに変更したりアイデアを出し合い、利用者に関わる時間が確保できるよう柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類感染症に移行後、本年は、参加可能な屋外での地域行事に参加した。まだ数は少なく、来年に向け下見をするなど参加可能かを検討している。スーパーでの買い物、理美容院の利用は控えている。馴染みの美容院に本人が電話連絡を行い、購入品の受け取りをサポートし、つながりが途切れないように支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療があり、協力医院と密に連携体制がとれている。夜間や緊急時に相談することが出来る。本人、家族の希望があれば希望の医療機関への紹介、受診対応している。週1回の訪問歯科の活用にて、治療や口腔ケアを受けることが出来る。また、飲み込みの様子を相談できる。	協力医の訪問が2週間に1回、訪問看護師の訪問が毎週ある。医師との連携が24時間出来る体制を確立し、利用者・家族に医療面での安心感をもたらしている。歯科訪問は希望者のみとし、週1回来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回協力医院の訪問看護があり利用者の健康管理の把握ができています。些細なことも相談できる体制が整っており、腹部の張りの確認やマッサージもお願ひできる。また主治医とのパイプ役となり、適宜な指示や、スムーズな受診につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には適時にホームでの様子等の情報提供を行っている。また病院関係者とこまめに情報交換を行い、早期退院へ向けて、ホームの生活にスムーズに繋がるように努めている。また入院中の家族の不安に対応できるよう、回復状況等連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期の体制について契約時に説明をしている。状況の変化の際には医師を交えて家族等と話し合い意向・方針を共有している。重度化や終末期には、生活感を感じて頂く環境で、こまめな訪室や声掛けをし、安心と居心地の良い環境になるように心掛けている。	入居時、ホーム長から重度化・終末期に向けた方針を丁寧に説明し、家族の同意を得ている。重度化した場合は主治医が家族に説明し、今後の方針等を決定・共有している。年一回、動画等を使って看取りに関する職員研修を実施し、看取りに対する職員の態勢も作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し備えている。実施しやすいように改善もしている。このテーマの研修に毎年一人ずつ参加し現場に下してもらっている。事例があった際等に対応方法の確認をし実践力が身につくよう努めているが、実践に不安を持っていることも現実であり、繰り返しの勉強や訓練が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害・地震を想定しての避難訓練を年2回行っている。非常用食料・物品を常備している。水害訓練では垂直避難を実施、全員が2階で過ごし、断水・停電を想定しての非常食での食事作り、寝床のレイアウトなどを実施している。また、火災訓練では車いすでの階段を下りる訓練を行っている。防災委員会を中心に改善点、必要物品の見直しを行っている。毎月15日に災害用伝言ダイヤルの練習をしている。	昼夜を想定した火災の避難訓練を年2回実施し、利用者も参加している。また、水害に備えた垂直避難の訓練も実施している。医薬品、衛生用品、食料など豊富な備蓄を整え、定期的に使用・補充する等している。BCP(事業継続計画)もその都度見直ししている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮不足や気になる態度や言葉かけ等を不適切ケアとして振り返る機会を設け、職員間で共通認識している。訪室する際にはノックをしたり、留守の際には了解を得てから、出来るなら一緒に訪室できるように工夫するなど心掛けている。排泄の失敗の際に、本人や周りの方に気付かれぬようにと努めている。	居室に入る時のノックや声かけ、着替え時のプライバシー保護などに配慮している。また、岡山弁を使用してゆっくり話すなどの配慮もしている。外部に写真を提供する際、他人の顔などが映らないように本人の顔をメインで撮影するなど、プライバシーにも細やかに気を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすいように、利用者に合わせて方法や声掛けを工夫するように努めているが、職員の都合で決めてしまっている場面もある。耳の不自由な方には、ジェスチャーや筆談を用いている。思いや希望を言いやすいように雰囲気作りやタイミングや場所に配慮している。帰宅願望の外出の際には、付き添い寄り添いながら本人の意思で戻れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し柔軟な対応に努めている。起床や食事の時間をずらしたり、入浴も本人の気分、体調、都合などを考慮した支援に努めている。思うように過ぎて頂く一方で、どのように過ごせばいいのが困っている方もある。興味の持てるものを一緒に見つけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の整容に気を配りさりげなく支援するように努めているが、気付くと、爪や髭が伸びていることもある。着脱し易い、温度調節がしやすいなどの衣類を家族の協力を得ながら準備したり、混乱が無く選択しやすい程度に数を調節するなど環境を整え、その人らしく衣類等を選択して頂いている。スタッフが好みを伺いながら散髪を行っている。お誕生日や母の日などは、特別な日としておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員手作りの、食事前には匂いが漂う家庭的な食事を大切にしている。季節・行事のメニュー等を取り入れたり、お誕生日には好きな料理でお祝している。苦手なものを別の物で対応したり、井が苦手な方には盛り付けを工夫している。メニューを分かり易く表示し話題にしたり、限られた方になるがちよつとした食事の準備と一緒に楽しむことがある。	管理栄養士が作成した献立を基に、職員が3食手作りで提供している。月に1回、「おばあちゃんの台所」と称し、利用者の希望するメニューと一緒に作っている。年間を通して豊かな行事食も提供し、利用者も味見や野菜の仕上げなど、出来ることに加わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重を測定し、定期的に管理栄養士に相談、助言を頂き、個々に適した食事量を把握している。栄養補助食品やパンを補食にする等、無理なく栄養摂取ができるように、また糖分に配慮したおやつや飲み物等個別対応をしている。訪問歯科医師に噛む力や飲み込む力の相談をしながら食事形態を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を活用し口腔内状態のチェックをしている。ケアや口腔機能の維持等について、訪問の際や勉強会を通してアドバイス頂きつつ、難しい面、アイスマッサージ等はお任せしながら、毎食後のケアに努めている。声かけ、見守りや介助などその方に応じたケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い個々の排泄パターンを把握し、タイミングやしぐさ・表情等のサイン等を見極め、個々に応じ介入の必要な所を支援している。ベッド上での失禁にも早めに気付けるよう意識している。睡眠の状態や安全面を考慮し、日中と夜間でのパットのサイズを使い分けている。着脱しやすい衣類や紙パンツ・パットのサイズなど、折に触れ見直しをしている。布パンツから失禁パンツそして紙パンツへと本人の気持ちやタイミングを考慮し移行した方がいた。	排泄記録と細やかな声かけにより、屋間は多くの利用者がトイレで排泄している。夜間は、利用者一人ひとりに応じた対応となっている。また、パットが小さくなったり、枚数が減った利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を食事に取り入れれたり水分量を意識する等、個々には牛乳を飲まれたり、また、運動を兼ねたトイレまでの歩行を大切に、自然な排便に繋がるように努めている。また排泄チェック表を活用し、排便の状況や形状から、その日の緩下剤の調整や見直しをしている。カみ難くなっている方には、訪問看護で腹部マッサージをお願いしつつ、看護師より指導を受けた職員が日常的にマッサージを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回程度、出来るだけ希望やタイミングに合わせて入浴の声掛けをしている。気乗りしない時には、時間を空けたり、日を改めている。入浴があまりお好きでない方には、歌やおしゃべりやジャンケンを楽しみながら気分を盛り上げる雰囲気作りに努めている。時には清拭に変更するなど柔軟に対応している。なかなか入れなかった方には、時間にこだわらずその方の気分によっていつでも入れるように準備しながら対応した。	週2回、午前を中心に入浴している。季節に合わせて温度を変えたり、入浴を嫌がる人には、動きの流れを変えたり言葉かけの工夫等により、清潔保持に努めている。また、要介護5の利用者も二人介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体力を考慮し、日中の休息支援や、起床時間や就寝時間などに配慮しています。適度に疲れるぐらいの日中の活動を心掛けたり、季節に応じた寝具・衣類などに配慮し、フロアーの各所や全居室に温湿度計を設置し、室温・湿度の環境を整えるようにしている。月に1度、寝具の清潔保持に取り組んでいるが、汗や皮脂等の多い方はその限りではない。布団の天日干しには課題がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の薬を貼付した薬カレンダーとして薬局より薬が届く。薬剤師と連携し、薬の変更の際には補足説明を頂き、服用後の様子等を伝えている。薬の変更には、日誌に付箋を貼り職員間で共有している。服薬時は、チェック表を用いダブルチェック、声出し、手渡し、飲み込み確認をし、服薬後に空袋の残薬確認や座面・床の落薬確認をしている。誤薬防止に努めており、誤薬事故はゼロ、ヒヤリハットは6件であった。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のやりやすくと感じる役割を無理のない程度に、それぞれのペースでお願いしている。スタッフと会話を楽しみながら心掛け、感謝の言葉を伝えている。気の合う方のおしゃべりができるように環境を整えたり、おしゃべりのサポートを心掛けている。一年間継続して毎月『お楽しみの日』を開催でき、入居者様と楽しい時間を持てた。数は少ないが男子会を開催できた(男性入居者さま4名、男性スタッフ2名の6名)。季節を感じてもらえる行事の催しが出来た。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの感染状況に応じて密を避けながら、本人の希望に添いお誕生日のお祝いにお弁当を持って外出したり、お花見などのドライブを楽しんだり、小学校の運動会に応援に出かけた。日常では、ホーム周辺を散歩したり、ポストまで投函に出かけたり、庭の花壇の花を眺めたり、受診の道中やゴミ出しの際に、外の空気や自然に触れる機会を設け、気分転換に努めている。	コロナ感染症で難しい現状にはあるが、職員と一緒に日々の散歩や誕生日のドライブ、花見等に出かけることで、気分転換を図っている。また、たこ焼き等をテイクアウトして外で食べたりもしている。	時期等、細やかな配慮の中で家族との外出計画が増えることに期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名ですが家族了承の上お金を所持している方がいる。コロナ対策として買い物外出は控えている為、リストアップした品物を職員が代理で購入している。お孫さん、ひ孫さんが来た時の為にお菓子を買っておく、という楽しみを支援しています。通販での購入を依頼される時には家族に相談している。自分で所持していない方も預かり金として職員が管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、家族にお手紙を書く支援をしている。本人に直筆の一言を書いてもらうお手伝いをしたり、或いはスタッフが代筆し、写真と共に送っている。また手紙と一緒に読み、共有している。希望に応じいつでも電話連絡できるよう、また取次ぎの支援を行っている。携帯電話を所持している方には、だんだん難しくなりつつあるが、充電等を支援しながら継続使用ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにテレビやソファを配置しどなたでもゆったりとくつろげる空間を作っている。時にスポーツ番組と一緒に応援している。換気をしながら、温湿度計を活用し室温・湿度の管理を行い、快適に過ごせるように配慮している。窓から、景色や空の様子を眺めたり風や天気を感じることができる。本年度は、ペランダのプランターに個々に朝顔の種を蒔き、水やりをしながら生育やたくさんの花を楽しんだ。	各階共有のリビング・廊下は広くて日当たりが良く、温度や湿度の管理も適切にされている。ゆったりと寛げるソファのそばに置かれた鉢植えやペランダの花の水やりは、利用者も加わっている。壁面には行事の写真や季節を感じるシールの絵などが飾られ、雑誌や新聞を読んだり職員と会話をしたりして、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの席があり、また3か所にソファを配置し、好みの場所できつろげる。定期的に配置場所の見直しを行っている。一人が落ち着く方等にはお一人席を準備しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談しながら椅子・机やテレビを設置しています。また、好みの小物や家族や本人の思い出の写真を飾るなど、自分の部屋と認識されやすくなっています。お茶セットを常備したり、その人らしく居心地のよい空間で過ごせるように工夫している。	各室に温度計・湿度計を置き、利用者の健康に配慮している。また、入口には利用者の写真を掲示するなど利便性も図っている。リクリエーションで利用者が出した作品や職員のプレゼントなども置かれ、その人らしい生活スタイルの中で穏やかに暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー、共用空間に手すりを設置し、階段には滑り止めマットを敷いている。居室では、掴まり歩きが出来るように動線を考慮し、家具を配置している。居室やトイレにはさりげなくプレートを掛け活用されている。		